



# 希望

多治見市立笠原中学校  
令和7年度 学校だより『希望』  
第10号 令和7年12月25日(木)発行

## Restart (再開)

校長 熊崎 健一

今年は、インフルエンザの流行が少し早かったり、発熱症状を伴わないようなケースもあったりして心配な日が続きました。それでも、感染が爆発的に広がることなく、長期の閉鎖措置なども行わずに年の瀬を迎えることができたのは、きっとお家のみなさんが、感染防止対策の徹底や早めの休養・受診にご協力くださったおかげだと感謝申し上げます。

そんな中、12月13日(土)の「幼保小中一貫教育の日」に合わせ、岐阜大学留学生との国際交流会を行いました。午前中の授業参観には、休日にもかかわらず多くのみなさんにお越しいただき、ありがとうございました。午後からの国際交流会には、21名の留学生をお招きました。今回は、東南アジア諸国の方が多く、英語を母国語としない国や地域から訪れ日本で学んでいる方もみえました。まず、ウェルカム・セレモニーを行いました。ウェルカム・ボードや机上に置かれた折り鶴、お土産のデザイン・タイルなどに興味津々の様子でした。お土産が有志生徒の手作りであることを伝えると、みなさんパッと表情が明るくなりました。児童生徒会長のスピーチも表現力豊かにやってくれました。所々に留学生へ問いかける言葉があり、私の一方的なスピーチとは比べ物になりませんでした。セレモニーを終えると、各学級の生徒がお迎えに来ました。初めて会う留学生にもかかわらず笑顔で接する生徒の姿に、これまで培ってきた“笠原英語”的底力を感じました。各教室では、留学生が母国の紹介をしてくれました。その内容も発音も声量も異なるのですが、どの生徒もしっかりと耳を傾け、懸命に理解しようとしていました。また、ほどよく反応を返すことで、留学生に安心感を与えていました。次は、いよいよ生徒の出番です。これまでに、日本の文化や習慣、多治見・笠原や学校のことを知つてもらおうと準備してきました。こちらも、伝える内容や伝え方はそれぞれでしたが、相手に伝えたいという意欲を強く感じました。最後はゲームで大いに盛り上がり、学級での活動を終えました。



交流後、留学生からは「とても楽しい時間を過ごすことができた」、「生徒のコミュニケーション力の高さに驚いた」、「チャンスがあったら、また交流したい」などの感想を聞くことができました。生徒たちも、もっと交流したかったようで、留学生が乗り込んだバスに向かって手を振り、名残惜しそうに見送っていました。このような国際交流会を約10年ぶりに“再開”させることができました。今後も、笠原地域の特色ある教育である英語の学びを大切にし、生徒自身が体験をとおして、自信を高めることができるような機会を設けていきたいと考えています。

## 『2026年が、明るく希望に満ちた年でありますように。』

もうすぐ新年を迎えます。「一年の計は、元旦にあり」という言葉どおり、物事は初めが肝心で一年の計画は元旦に立てるべきということもよく理解できます。そして、来る2026年の計画の中に、新年度、笠原小中学校の開校が位置づいています。

年が明ければ、引越しに向けての作業が本格化しますし、生徒も少なからずそこにかかるわっていくことになるでしょう。おそらく年始から新年度スタートまでは、慌ただしい日々が待っていると思います。それでも2026年が、明るく希望に満ちた年になることを願っています。「みなさん、どうかよいお年をお迎えください。」



### ～多治見市【親育ち4・3・6・3たじみプラン】親育ちコラム～ 『そうか、自分もちよっといいかも…（その3）』

その子を縛り付けている「学習性無力感」の悪循環が逆に回り、少しずつその子の心の中に、勇気や挑戦の種となるような、温かなものが広がることを願う時、私たちはどんな思いでかかわればいいのでしょうか？まずは、「そんなの常識」・「そんなこと」・「当たり前」といった鎖から、私たち自身が自由になることでしょう。取るに足らない小さな一步、そんなことをほめると、かえって甘やかしてダメにする。いや、そう見えるけれど、実は、この子にとっては大きな一步かもしれない。そんな目で子供たちを見ていると、「当たり前」の内側で、彼らが流している心の汗が見えてきます。その汗の尊さを、その子に本気で伝える思いと言葉が生まれます。「この人は、長所も短所も含めた自分の全存在を大切に思ってくれているんだな。そうか、自分もちよっといいかも…。うん、自分にも何かができるかもしれないな。」こういう感覚を「自己効力感」といいます。私たちが精いっぱい生きてきて獲得した「当たり前」は尊いものです。しかし、時にはそれをあえてこそげおとし、目の前の子の「当たり前」を愛おしくかかわりが、その子の自己効力感を育て、挑戦を支えると信じます。【教育推進課 家庭教育担当】